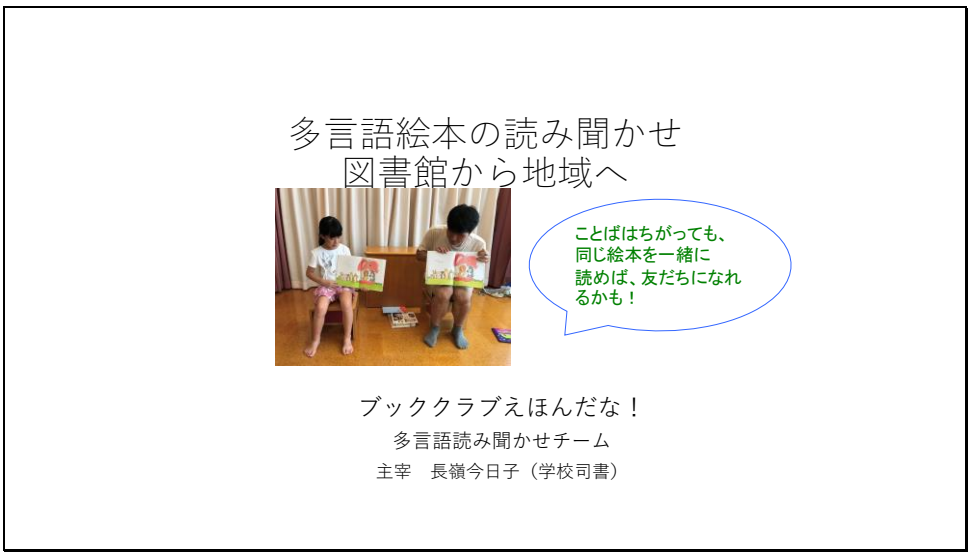
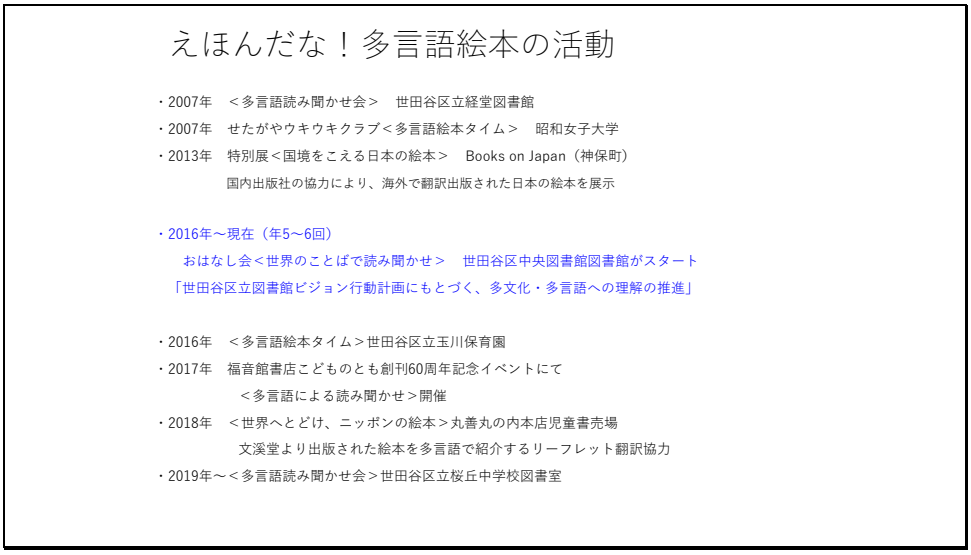


私からは多言語絵本の活動の様子を詳しくお知らせしようと思います。「言葉は違っても同じ絵本を一緒に読めば、すぐに友達になれるかも」というテーマで、細々とですが活動が続いています。



当初、私は石原さんと一緒に RAINBOW で活動をしていました。でも私自身の 3 人の子供の子育てがあって、目黒まで行くのがもう大変になり、自分の暮らす地域で活動したいと思ったところ、ちょうどその頃 RAINBOW に、世田谷区立経堂図書館の職員の後藤さんがいらして図書館でもやってみたいというご要望があり、ここから世田谷のえほんだな!の多言語絵本の活動が始まっています。世田谷中央図書館の「世界のことばで読み聞かせ」が始まったのは、2016 年の前後になります。

世田谷区中央図書館
多言語絵本コーナー
英1609冊、中98冊、ハングル89冊、仏36冊、独18冊

絵本、児童の本のエリアに、多言語絵本コーナー、その横に読み聞かせをする、おはなしのへやがあります。

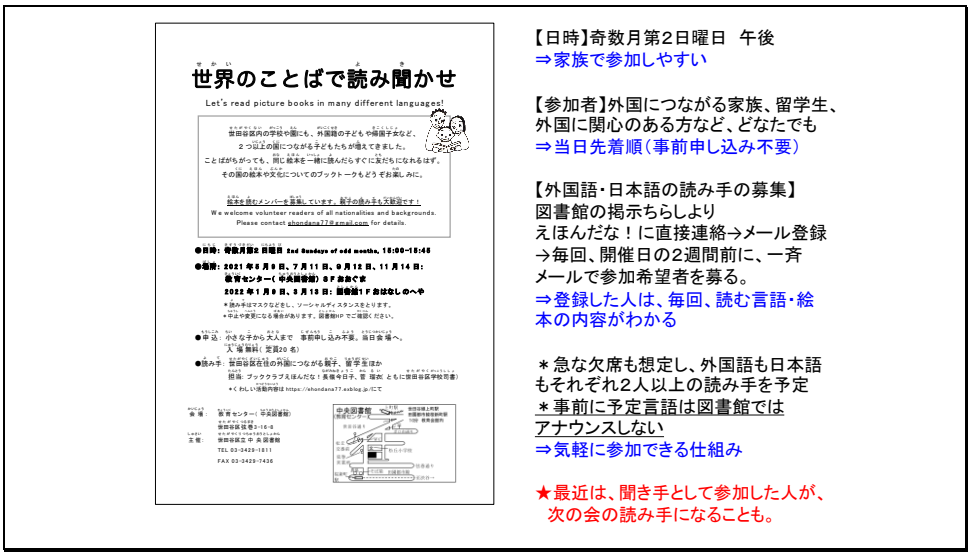
世田谷中央図書館に入り、左手がずっと児童書のコーナーになりますが、絵本と児童書が並んでいる一番奥のところ、写真の壁面のところが多言語絵本のコーナーになっています。写真は見づらいかもしれませんが、季節に合わせて、英語だけでなく韓国語やいろんな言語の絵本が並んでいます。

蔵書冊数については、英語 1609 冊という数字は、中央図書館と、２０ある地域館を含めた数です。外国語絵本は中央図書館の所蔵冊数が多く、特に英語以外の言語は、ほぼ中央図書館に集まっているという状況です。

多言語の棚（一般書）
英8776冊、中1073冊、ハングル751冊、仏88冊ほか

世田谷区立図書館のHPは、英語、ハングル、中国語で利用が可能

多言語の一般書の棚は、図書館の入り口まっすぐ行ったところにあります。写真の表にあるように、ビルマ語とかタイ語、ラオス、ベトナム、カンボジア、インドネシア、タガログ、トルコ、アラビアと、所蔵している言語が並んでいますが、冊数的にはやはり英、中、韓国そしてフランス語が多く、他の言語は 30 冊前後という状況です。ちなみに区立図書館は英語、ハングル語、中国語でホームページは検索をすることができます。



私たちの読み聞かせは、基本的に第 2 日曜日にやっています。日曜日にしたのは家族で参加してもらえるように、そして午前中は教会に行く方もいらっしゃるので午後にしています。参加者は誰でも、外国につながる家族、そして地域の留学生、図書館となりの小学校の児童も多く参加します。読み手の募集は、この図書館に置いているチラシを見て、やりたいと連絡がある人もいますし、聞き手として参加した当日に、今度は私もやってみたいという外国人の親子もいたりします。連絡のあった方はメール登録をしていますので、開催する 2 週間前には私からメールを一斉送信し、読み手を募ります。ここ数年は読み手はすんなりと決まることが多いです。探すというよりも、次は私がやりますと言ってくだ

さる方が増えています。ただみんな子育て中ですし、直前に何があるかわからないので、常に２人以上（２言語以上）の外国語の読み手、日本人の読み手も複数確保しています。

一つ特徴としては、図書館では事前に読む予定の言語をアナウンスをしていません。最初の頃は中国語で読みますとアナウンスしたこともありましたが、そうするとお母さんたちがものすごく練習をしたり、プレッシャーになってしまうのが感じられたので、その日、何語をやるかは、当日のお楽しみとしています。よって、急に都合が悪くなったとか子供の体調が悪いとかそんな時も無理せず休めますし、日本人も外国人も、自分の普段の暮らしの中でちょっと気軽に参加できる仕組みにしています。

【読む本】
絵本選びは、基本は図書館の蔵書から、読み手と相談。準備も活動の楽しみ。

複数言語で読む時は、時間が長くなりすぎないように、できるだけ、短い、シンプルなお話の作品を。

母語の絵本を持参し、ブックトークのように、その国の文化や子どもたちの様子などを紹介することもあり。

蔵書以外の絵本を使用した場合、蔵書として受け入れを図書館と相談。

＊著作権法上、外国語で出版されていない作品を独自に翻訳して、図書館など公の場で読むためには出版社の許諾が必要。⇒活動の負担になるため、基本、出版された絵本を使用。

＊これまで使った絵本のリストは、座談会ページのアーカイブにあります

読む本は図書館の蔵書からを基本としています。読み手と相談して決めるので、実は私たちにとっては、準備するのが結構楽しみです。子ども自身が読みたい本、子どもに読んであげたい本など、絵本選びも楽しみの一つになっています。会の進行としては、複数の言語で読みますので、意外と時間が長くなります。例えば、ぐりとぐらは、多くの言語で出版されていますが、日本語の作品としてはちょうどよいボリュームでも、二つの言語で読むと、聞き手の子供達にとっては、とっても長くなってしまいます。本を選ぶときはシ

ンプルで、短く比較的ちょっと赤ちゃん向けの絵本が多くなることも多いです。ただ赤ちゃん向けでも音の響きや展開がシンプルなので、大人でも多言語になると十分楽しんでもらえるようです。蔵書以外の本で、時々お母さんお父さんたちが自分の国の絵本を紹介する時もあります。日本語の翻訳なしで、外国語だけで読むと子どもたちにはわかりづらいので、ブックトークのような形で、絵本を紹介しながら、その国の文化や子どもたちの暮らしなどを話してもらうこともあります。また蔵書以外の絵本を使用した場合は、図書館の方で蔵書として受け入れを検討してくださる時もあります。中央図書館が主催の読み聞かせですので、基本はやはり図書館の絵本にし、会の後にも貸し出しにつながったり、図書館の利用につながるということを意識しています。実はこの活動が進んでいくと、外国語で出版されていない作品や、逆に日本語がない作品を自分でちょっと翻訳してみたいというお母さん、お父さんの気持ちが出てくるのですが、公共の図書館で、公に読むためには、勝手には翻訳が出来ません。そのための許諾は非常に活動の負担になるので、基本は出版された絵本を使っています。写真の下の方の絵本の『たまごのあかちゃん』や『おつきさまこんばんは』の英語版は、日本の福音館書店から出版されたものです。中国語版は中国の出版社です。これまで使った絵本のリストは、この座談会のページのアーカイブにアップしました。外国語に翻訳された作品はたくさんありますが、特に読み聞かせに向いている絵本を探される方にはぜひ活用いただけたらと思います。日本の絵本をベトナム現地で翻訳出版している mogu プロジェクトのリストもアップしています。

2016年～2018年

保育園の先生＆東京大学留学生（英・韓・日）

【会の進行】

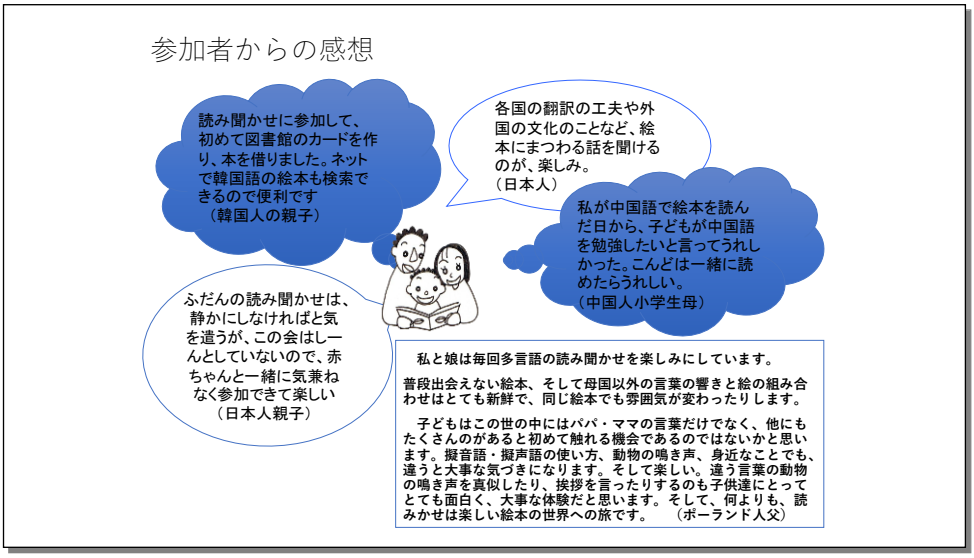
・演出も読み手のアイデアで、臨機応変に。ページごとに、2言語で読んだり、ことばの響き、お話の流れなどを優先して、一冊通して外国語で読み、後から日本語で読むこともある。
・参加の子どもたちの年齢が、毎回幅広いため、会のはじめに、読み手に各言語を使ってもらいながら確認する。
ex「3才の人！中国語ではサンスイ、韓国語では세살 セサル」

図書館近くに住むロシア人おじいちゃんと孫

タイ人、ポーランド人のお母さん＆図書館職員

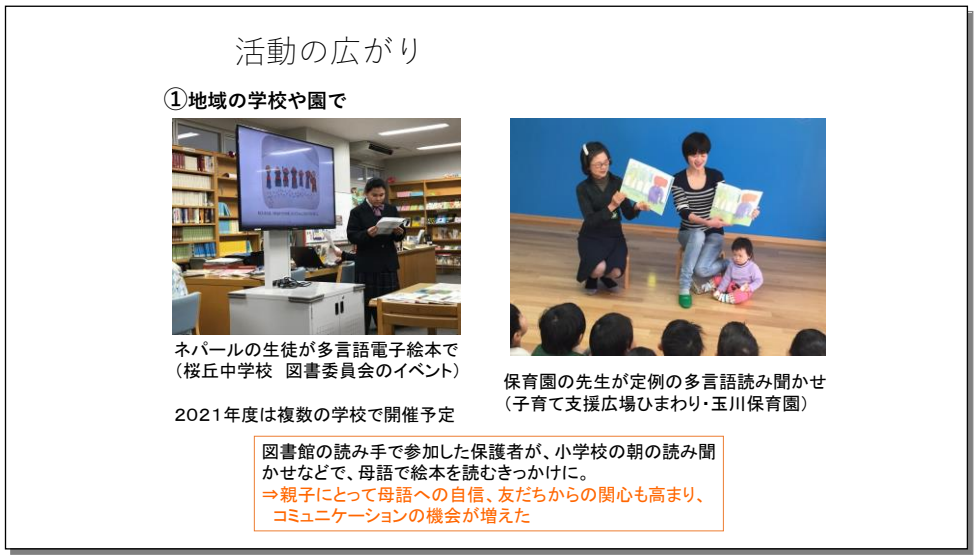
2016 年から 2018 年の活動の写真を今回、このスライドのために色々探してみると気づいたことは、このころはまだ図書館の職員に、日本語の読み手などを手伝ってもらっていました。保育園の先生や留学生も手伝いに来てくれていましたね。読む方法は、1 ページずつ読んだり、本全体を外国語で読んでから、日本語を読んだり、読む人と相談しながら決めています。参加者の年齢は、直前にならないとわからないので、いつも会の始めに、各言語の読み手の紹介もかねつつ、「三歳の人、中国語では…韓国語では…ポーランド語では…」というように、その日の言語で年齢を伝えてもらって、子どもたちは自分の年齢で手をあげます。音の響きの違いを皆でシェアできるので、小さな子も興味津々です。参加者は、写真のように、図書館近くに暮らすロシア人のおじいちゃんがお孫さんと一緒に参加されたり、ふらっと来てくださることも多いです。

2019 年からここ最近は、写真を見ていただくと、もう職員さんはうつっておらず、ほとんどがファミリーでフランス人のお父さんと日本人のお母さんだったり、ポーランド人の親子など、家族の中で、日本語と外国語を役割分担してくれることが多くなってきています。写真の右の下がつい最近ですね。マスクをしているので距離がありますが、コロナ以前は、お話の部屋にぎっしり集まって開催していました。さすがにちょっとディスタンスが取れないということで図書館の方で上の大きな部屋を予約してくださいました。こうやって距離を取りながらみんなで集まれるのは貴重なひとときです。こうやって活動をしてきている中でここで読んだ人たちが、次に自分の地域で読んでくれるというつながりがあります。

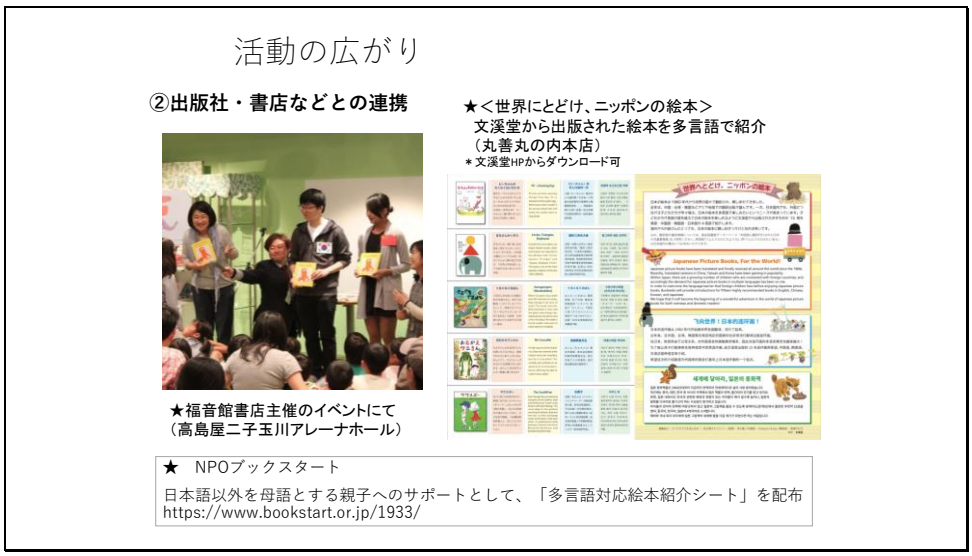


参加者からの感想です。最近熱心に参加しているきょうだい男の子の韓国人のお母さんからは、図書館のカードを初めて作り、ネットでも図書館のホームページも韓国語で検索できるのでとっても便利だと、二回目に参加した時には自分で絵本も探して借りて準備してくれていました。中国人のお母さんと小学生のお子さんは、お母さんが読んだ日から、子供が中国語で勉強したいって言ってくれてとっても嬉しかったと。お子さんが今一生懸命　絵本の練習をしてくれているようです。次回に登場するのを私たちも楽しみにしています。参加する人は、読み手以外の聞き手の方は、日本人の家族も多いです。数ヶ月の赤ちゃんを連れている人も参加されて、小さな赤ちゃんはまだ多言語とかわからないけど、どうしてくるのかなーと思っていたところ、普段の図書館の読み聞かせは赤ちゃんと一緒だと静かにしてなくちゃいけないから気を使うけれど、この会は、シーンとしてないので気兼ねなく参加できて楽しいとのことでした。確かに私たちの読み聞かせの会は、結構にぎやかです。いわゆる日本の静かな読み聞かせというよりは、それぞれの国のお国柄がすごく出ています。最後にポーランド人のお父さんが長い感想を送ってくれました。全部は読みませんが、やっぱりパパとママの言葉だけではなくて他にもたくさんの言葉があるということに触れるすごく楽しい機会だと書いてくれました。このポーランド人のお父さんは、もともと参加していたポーランド人のお友達です。

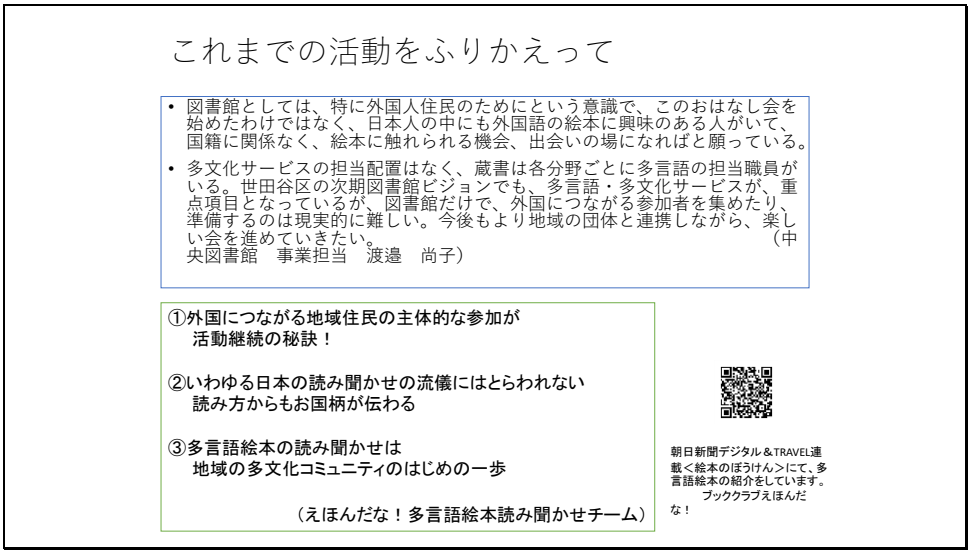
やっぱりその国ごとのコミュニティがあって、誰かを紹介してくれるって言うのは、今までも良くリレーでつながっている読み手の連携になっています。



先ほどの読み聞かせの図書館の活動で読んでいた人たちが、今度は学校や地域に広がっていく例です。世田谷区立中学校では、今年度、複数の学校で多言語読み聞かせの会を図書委員のイベントとして検討しています。写真は桜丘中学校のイベントの例です。石原さんの多言語電子絵本のネパール語のかさじぞうを張り切って読んでくれた女の子でした。保育園の先生が、自分の保育園に戻って読み聞かせをしている例が、右の写真です。ここに写っている中国人のお母さんが、先ほどの感想の小学校の子が中国語勉強してくれて嬉しいって言ってくれたお母さんですが、保育園の読み聞かせにも協力してくれました。このお母さんもそうなのですが、小学校は朝の読み聞かせ活動があり、それにも積極的に手を上げて母語で読むというお母さんが増えています。やはり親子にとっての母語への自信、一緒に読み聞かせに参加した友達からの自分の母語への関心が寄せられて、また、コミュニケーションの機会が増えるという状況が、だんだんと増えていっています。



この活動をしている中で出版社や書店なども興味を持ってくれて、2017 年には福音館書店さんが主催しているこどものとも 60 周年記念のイベントで、多言語の読み聞かせの時間を作ってくださいました。同じ世田谷区の二子玉川で行われたイベントです。また丸善丸の内本店では、中国語、韓国語、英語、日本語で絵本を紹介できるように、出版社の文溪堂さんが多言語のリーフレットを作成されました。翻訳はえほんだな！のお母さんたちが協力しました。また読み聞かせを見に来てくださっていた、NPO ブックスタートの方でも日本語以外の母語のお母さんへのサポ―トとして、多言語対応の絵本の紹介シートを配布しています。ブックスタートのウエブサイトに詳細がありますのでどうぞご覧ください。



今回の総合展でこうやってお話をすることになり、図書館の職員さんともこれまでの活動をふりかえりました。ずっとサポートしてきてくださった事業担当渡邉尚子さんからは、図書館としては特に外国人の住民のためにという意識で最初は始めたわけではなくて、日本人の中にも外国語の絵本に興味のある人がいて、また国籍に関係なく絵本に触れられる機会があればと願っていると、それはもう今も変わらないとのことです。中央図書館は、特に多文化サービスの担当の配置はありません。蔵書は各分野ごとに多言語も担当職員がいます。次の図書館ビジョンでも、引き続き多言語多文化サービスは重点項目になっています。ただ図書館だけで外国につながる人たちに向けて何か企画をしたりするのはとても難しいので、やはり地域の団体と連携しながら進めていきたいということでした。ちなみに RAINBOW の多言語電子絵本は、世田谷中央図書館では児童サービスの方には届かず、やはり障害サービスの方で受け入れたのか、いずれにしろ DVD は資料としては地域資料のみ収集する方針のため、問い合わせがあれば貸出できるとのことでした。えほんだな！のメンバーの中でのふりかえりとしては、今度私が読んでみたいと、お母さん、お父さん、子どもたちが言ってくれる、その主体的な参加がこの活動の継続の秘訣だと話しました。

そしてスライドの中にも感想がありましたが、日本の読み聞かせの流儀にはもうあまりとらわれず、読み方からこそお国柄が伝わってくるので、それぞれの工夫を大切にしています。こういう活動が今 6 年目になりましたが、公共図書館で隔月 1 回でも開催されることで、そこに人が集まってきます。読み手だけでなく、当日の参加も、外国人の家族も参加するようになってきているので、地域のコミュニティのはじめの一歩だと実感しています。世田谷では、今もうひとつ動きがあってそれが次のスライドです。

世田谷区には、昨年、クロッシング世田谷という国際交流センターができました。交流センターの方では外国人スタッフによる読み聞かせ会がスタートしています。今年 3 月に、図書館に見学に来てくださったのですが、

すでにクロッシング世田谷では、イクリス世田谷さんという多言語の読み聞かせをしている団体と世田谷区の地域子育て支援コーディネーターとの協力で、赤ちゃん向けの読み聞かせを開催していました。この秋からは外国人のスタッフさんが勤務する日は、外国語の読み聞かせをするということで、木曜日は韓国語と英語、日曜日は中国語と英語、（月曜日は休館）と曜日ごとに予定されています。多言語絵本の活動が、様々な地域の活動と連携しながら、また新しい場所に広がっていくことを楽しみにしています。そして私たちも、クロッシング世田谷のやさしい日本語の講座に先日参加したので、来年度は図書館と相談しながら、ちらしをリニューアルしようと話しているところです。以上です。